

1. 評価結果概要表

平成 21年 3月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2072501170		
法人名	社会福祉法人みなみ信州		
事業所名	グループホームあぐり河野		
所在地	長野県下伊那郡豊丘村河野1669-3 (電話) 0265-34-3535		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年2月22日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(20年 12月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人	非常勤3人 常勤換算8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		30,000 円

(4) 利用者の概要 (12月 20日 現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	4名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81 歳	最低 68 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下伊那厚生病院・JAみなみ信州歯科診療所・吉川医院・三浦医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して3年が経過し、介護や認知症についての質問や相談を受けたり、多くのボランティアとの交流、ホーム主催の行事への地元住民の参加がある等、地元の中にホームの存在や役割が少しずつ根付いてきている様子がわかる。これは、理念のひとつである“グループホームのケアのあり方や役割、課題を地域へ発信し、地域で支えるまちづくりに貢献していきます”の実践を職員が取り組んできた結果である。また、職員が大事にしている家庭ではないけれど家庭的な雰囲気、“その人らしくを”支援している様子が伺われ、穏やかな暖かい雰囲気のホームとなっている。会議の中に研修時間を設けるなど職員全体でレベルアップをめざしており、今後も、3つの理念の実践を期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘のあった“家族等の意見”では、家族会において職員が席を外して家族のみで話し合いが持てるように改善されている。“重度化・終末期に向けた取り組み”では、マニュアルの作成を行い改善を進めている。“馴染みながらの利用”についても、引き続き意識して配慮をしている。運営推進委員が改善点のモニター役になっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価について、職員会議で意義等話し合い、職員全員が自己評価を行った。提出された自己評価全体を管理者が中心になってまとめた。結果については、今後運営推進会議に報告し、職員会議においても話し合う予定になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、入居者・家族会の代表、河野地区区長、老人クラブ代表、ボランティア団体、民生委員、消防団代表、保健協力委員、地区村会議員、近所の方、JA関係者、地域包括支援センターなどの参加を得て開催している。活動報告や状況について話し合い、意見をもらっている。意見を活かして、テラスにスロープを設置する、認知症の学習会を開く、開催時に防災訓練を行いアドバイスをもらうなど、サービス向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは、毎月のお便りを利用して利用者の状況を知らせたり、ホーム便りを送り、面会時に話しをするなど様子を伝えることで少しでも安心してもらえるように配慮している。家族会を年2回開催し、家族だけで話し合う時間を設けている。運営推進会議にも家族代表が参加しており、意見を出してもらっている。出された意見は、職員会議で話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	4月から秋頃まで週1回、地区婦人部ボランティアの訪問があり、草取り、話し相手、芸能発表などの交流がある。小学校の福祉交流クラブの子どもたちが月1回来てくれて一緒に過ごしたり、敷地内にある児童クラブ、保育園、中学校とも交流している。大学生等のボランティアの受け入れも積極的に行っている。また、みんなで畑を作っていると、近所の方がアドバイスをくれたり、野菜・果物の届け物もある。開設して以来、地元と交流をしており、ホーム主催の納涼祭には地元住民の参加もあってにぎやかに開くことができた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設後、2年弱は法人の理念をホームの理念として取り組んできたが、平成20年1月にみんなで、“入居者と家族の尊厳や願いを最大限に尊重する・その人らしく「穏やかに・安心して・深く理解し・そのまま受け止め・自立」に向けて継続的に支援・G・Hのケアのあり方や役割、課題を地域へ発信し、地域で支えるまちづくりに貢献”と、ホーム独自の理念をつかった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに掲示してあり、月2回の会議や1日3回の申し送りの時に、みんなで読み合っている。毎日読みあうことで、自分たちの姿勢を振り返ることが出来る。特に、2番目の理念を意識してケアにあたるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	4月から秋頃まで、地区婦人部ボランティアの週1回の訪問があり、草取り、話し相手、芸能などやって交流したり、小学校の福祉交流クラブ等の月1回の訪問、敷地内にある児童クラブ、保育園や中学校との交流、大学生のボランティアの受け入れなど、積極的に行っている。また、みんなで畑をやっていると近所の人がアドバイスをしてくれたり、野菜等も届けてくれる。ホーム主催の納涼祭には地元住民の参加もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について説明し、全職員が自己評価をして管理者がまとめた。前回の評価を受けた後、家族会において、職員が席をはずして家族の話し合いの時間を設定する、重度化・終末期に向けた取り組みではマニュアルを作成するなど改善に取り組んでいる。また、運営委員会にも報告をして、改善点のモニター役になってもらっている。		

グループホームめぐり河野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、入居者代表、家族会代表、河野地区区長、老人クラブ代表、ボランティア団体、民生委員、消防団代表、保健協力委員、地区村会議員、近所の方、JA関係者、包括支援センターなどの参加を得て開催している。活動報告や、状況について話し合い、テラスにスロープを設置する、認知症の学習会を行なうなど出された意見をサービス向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>情報交換や、運営上の質問等相談に行きアドバイスをもらっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りで、金銭出納や献立表・写真と一緒に担当が利用者一人ひとりにその月の生活面・健康面での具体的な様子を書き、ホームからの連絡もあわせて家族等に送っている。また、「めぐり河野」ホーム便りの発行や、面会時に状況を話すなど機会を作って行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年2回開き、職員が席をはずして家族だけで話し合う時間を設けている。推進委員会にも家族代表が参加しており、意見を出してもらっている。出された意見は、職員間で話し合い運営に反映している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今までに異動が1回、退職者が2人いたが、利用者への影響を配慮して、辞めることを表立っては言わない、異動は極力少なくするなど考慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に状況や希望に合わせて参加している。毎月の職員会議に研修報告会を兼ねての勉強会の時間を設けている。また、ホーム独自の研修会も開いており、2月16日には食に関する勉強会を管理栄養士を招いて行った。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>長野県グループホーム連絡会に加盟している。また、飯田・下伊那地区の連絡会に入り、お互いのホーム見学や意見交換等行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にほとんどの方に事前見学をしてもらっている。職員が、自宅や施設に説明に行ったり、面接をして話を聞き、職員にも早く馴染めるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援ではなく、協同で日々の生活を送るようにしている。季節や郷土の料理、昔からの生活の知恵や工夫、行事等教えてもらうことも多く、それぞれの役割を持ってもらい、一緒に行うようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「その人らしさを大切」ということで、一人ひとりの希望や思いを聞くように努力している。また、アセスメントシートについても、一人ひとりの希望や困りごとなど記入できるような工夫を始めている。</p>		<p>現在のアセスメントシートだけでは、一人ひとりの生活歴、願い、得意なこと等、日々の暮らしの中でわかった情報を十分に整理できていない。現在取り組み始めているので、センター方式も含め、さらに思いや意向を客観的に把握して、ケアに活かせることに期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者に対して、職員が担当制をとっていて、毎月のケア会議や職員会の中で、一人ひとりについて話し合っ介護計画ができています。家族には毎月様子を知らせており、来訪時に意見をもらったり了承を得ています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1回の定期的な見直しと状況に応じての変更を行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族や本人の希望に合わせて、通院を行っている。また、空き室がある場合、緊急時の宿泊を受ける体制がある。</p>		

グループホームめぐり河野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望に合わせてかかりつけ医を決めている。往診あるいは通院をしている。希望で歯科の往診や訪問マッサージも受けている。訪問看護ステーションとの契約で、健康管理・医療面での相談体制が出来ており、必要時には適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期ケアに関する意向と確認書は家族等からもらっている。職員間でも、ターミナルまで行うことの方針は確認されており、看取りケアの勉強も行ってきた。また、前回の評価においての課題であった緊急時の対応マニュアルの作成もされている。</p>		<p>職員間での合意もされており、体制作りが進んでいる。引き続き、家族の意向や希望を確認し、さらに、職員が不安なく対応できるように研修や話し合いを継続され、医療関係者との連携も進めていくことを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内でコンプライアンスについての研修を2回行っている。個人情報の取り扱いには、十分に注意をしている。引き継ぎを利用者のいるところで行う場合には、個人が特定できないように配慮をしている。また、言葉かけや対応についても、気をつけあっている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの1日の流れはあるが、理念にもあるように一人ひとり「その人らしく」過ごしてもらえるように、好きなことややりたいことを選んでもらうようになっている。昼食前後も、準備を最後まで手伝う人、先に食べ始める人、片付けをして歯磨きをし始める人、テレビを観る人など、さまざまに過ごされていた。</p>		

グループホームあぐり河野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなで希望を出し合い、1週間の献立をたてている。食事の準備や片付けは、それぞれやりたいことや出来ることを職員と一緒にやっている。買い物も一緒に行っている。七草かゆ、繭玉作り、五平餅、団子、ほう葉料理等、行事食や郷土食も大事にして取り入れている。調査当日は、みんなでおいなりさんを作ってくれた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から準備を行い、1時半頃から希望を聞いて入ってもらっている。入浴のチェックを行い、週に2から3回は入ってもらうように声をかけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、玄関掃除、洗濯物をたたむ、畑仕事、縫い物、食事の準備と片付け、お茶出し、干し柿作り等、役割を持ってもらうと同時に、縫い物、ぬり絵、歌、体操など好きなことを楽しめるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に公園もあり、車いすの人と一緒に散歩に行ったり、冬の時期は敷地内やベランダで日向ぼっこをするなど、外の空気にふれるようにしている。ドライブや日々の買い物、外食など外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で話し合い、鍵は夜間のみかけている。チャイムがなるようにしてあるが、必要な時は見守っている。		

グループホームめぐり河野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルが整備されており、年2回実際の訓練を行い、近隣の協力者の参加もある。村の防災訓練にも参加をしている。運営推進会議の開催に合わせて訓練を行い、アドバイスをもらっている。また、災害時に備えて、水等の備蓄もされている。利用者と一緒に防災頭巾を作り、各部屋においてある。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事と水分の摂取確認、月1回の体重チェックを行い、栄養状況の確認をしている。管理栄養士に献立内容を見てもらい、アドバイスを受けている。2月16日には、食事についての学習会を開いた。当日の食事のときも、その人にあった食べやすい工夫がされていた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂の続きに和室があり、炬燵やテレビが置いてある。ソファもあり、それぞれ好きな場所でテレビを見たりして過ごしている。カレンダーの他に、日付が大きく書いてあったり、お雛様があったり季節がわかるようにさりげなく気配りがされている。新聞や雑誌、本などもあり、いつでも見れるようになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>たんす、鏡台、写真、絵画、洋服ダンス、雑誌、人形などそれぞれに使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、安心して過ごせるようになっている。ベッド、和式の布団なども、好みによって使われている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。